



学校だより

横浜市立六つ川台小学校

6月号

令和3年5月29日

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

E-mail: y3mutukd@edu.city.yokohama.jp



距離はとっていても

副校長 小山 雅史

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症がいたるところに影響を及ぼしています。PTA総会や学校運営協議会、まちとともに歩む学校づくり懇話会など、書面で代替することとなりました。こうしたコロナウイルス禍で、ソーシャルディスタンスという新たな言葉が使われるようになりしばらく経ちました。お互い一定の距離をとるという意味で使われていますが、ソーシャルは社会的、ディスタンスは距離という意味ですから、「社会的な距離（をとる）」という意味になります。実際は身体的な距離をとっているのです、フィジカルディスタンス「身体的な距離（をとる）」とした方がよいのではないかという議論もあるようです。距離をとることがすっかり浸透し、それと同時に、学校生活の中で、家庭の中で、地域の中で、人と関わるのが難しくなっているように思います。

しかし、制限がある中でも、各ご家庭でもいろいろと声掛けをしていただいているおかげで、子どもたちが元気に登校し、楽しく過ごしている様子を見ることができていることを大変嬉しく思います。先日、4年生が地域の釣竿作り名人の方のところへ出かけました。お話を伺っている中で、子どもたちの興味が湧いてきて、「師匠！質問があります。」とすっかり乗り気になり、総合的な学習の時間のテーマとなるようです。また、六つ川台小学校の卒業生に「邦楽会の方ですね。小学校の体験学習がきっかけで自分も邦楽を続けています。」とふと立ち寄ったスーパーで声を掛けられた、というエピソードを南区邦楽会の方から伺いました。先日の研究授業では、3年生、5年生とも計算の仕方について意見を出し合い、学びを深めていく姿がありました。昨日は、ペア学年で活動するなかよしデーでした。上学年がリードして楽しい活動にしようと頑張る姿がありました。横浜市立学校では、GIGAスクールの準備が進められていますが、これは新たな学び合い、関わり方とも言えそうです。人との関わりは、子どもの学びを広げたり、深めたり、豊かにしたりします。関わりが生み出す力はそれだけではありません。子どもたちが安心して学校生活を過ごせるよう、子どもの学び支援ボランティアや特別支援教育支援員の方々には、日々の消毒作業や学校生活の支援をしていただいております。

このコロナウイルス禍で、人との関わりについて改めて考えさせられています。身体的な距離を取らなければならない生活はしばらく続きそうですが、保護者、地域、学校が一体となった「チーム六つ川台小学校」は、距離はとっていても、心がつながっている関わりがあってこそのものであります。